

# 七友会 だより



## 我が人生の中間(?) 決算

国際文化課程 小林 英信

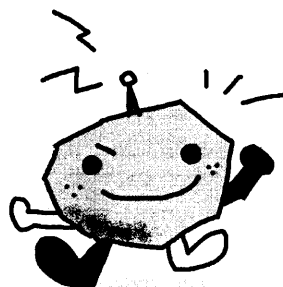
僕は、2010年3月31日をもってめでたく停年退職となります。すでに年齢は65才を越えています。このあたりで我が人生を振り返り、中間決算を行っていても悪くはないのでは、と考えています。ちなみに<中間>が<真ん中>ということの意味するのであれば、中間決算と言うのは正確ではないでしょう。というのは、2009年度の男性の平均寿命はおよそ80才であり、このことからしますと、僕の人生ははるかに<中間>を越え、あと15年しか残っていないということになるからです。しかし僕は、まだ15年もあるのではないかと考えています。15年という年月は、何事かをつち成し遂げるには不足のない年月であるからです。

僕は、大学の教員として39年間勤めました。しかし、僕には教員免許状がありません。教員になるという考えは、学生の頃にはまったくなかったからです。僕が高校生の頃から目指してきた職業は、新聞記者になるということでした。そのきっかけは、昭和の巖窟王と呼ばれていた吉田岩松が無罪を勝ち取るのに新聞記者が重要な役割を果たした、ということを知ったからです。無罪判決は1963年2月にありました。そして、その年の3月に僕は大学に入ったのです。もちろん、受験した学部は文学部でした。文学であれば何でもよかったのです。高校生の頃英語は得意でしたが、英文学にはヒヤリングのテストがありました。それまでまったく生きた英語を聞いたことのない僕にとっては、それは大いに不利でした。そこで、ヒヤリングのないドイツ文学を選んだのです。このような不純な動機からドイツ文学を選んだからでしょう、入学したものの僕はドイツ語の勉強にはまったく興味がわきませんでした。幸い入学してからすぐに大学紛争(筑波移転反対闘争)が始まり、たびたび授業が休みになりました。最も長いものとしては、大学側のロックアウトによる1年3ヶ月という休みがありました。休みが多いことは、僕にとっては非常にありがたいことでした。なぜなら、新聞記者になるためには雑学が必要でしたが、そのための時間が十分に確保できたからです。このような僕が、ドイツ語の教師として39年間も勤めてしまったのです。人生とは、まさに思うようにはいかないものですね。では、僕の人生は失敗だったかといいますが、学生であった皆さんには悪いですが、決してそうは思っていない。退職する今になって思うに、もし新聞記者になっていたら、僕はきっと途中で、それも早い段階でやめていただろうと思います。というのは、高度成長期に入って以降の新聞は、権力を監視するという重要な使命をほとんど放棄してしまっていたからです。吉田岩松を支えたような記者魂を持っていた記者には、職場は住みにくい世界となってしまっていたのです。

ところで、加藤周一は「人生の三期」(『朝日新聞』2006年2月23日付)というエッセイの中で、人は、その人の努力次第だが、定年退職後の時間を人生において最も充実した時間とすることができる、と述べています。その時期は、インドのマヌ法典においては「林住期」と呼ばれていますが、その一つ前の「家住期」(要するに、会社勤めの

### 目次

我が人生の中間(?)決算	1
小林英信先生遂に退官	2
「同窓会設立30周年記念事業」 企画会議報告	2
「学部就職ガイダンス」 開催される	2
「岩手大学同窓会連合」会議録	3
最近の主な活動状況	4
訃報	4
評議員会開催について	4
雑感	4



Uwate  
University  
岩手大学

時期)には言いたくも言えなかったこと、やりたくてもやれなかったことを誰に遠慮することなくやれる時期である、と加藤は述べています。彼らが、積極的に社会に向かって発言し行動すれば社会はもう少しよくなるだろう、と。しかし、それには準備がいます。つまり、その発言や行動を十分に意味あるもの、説得力あるものとするには、マヌ法典でいう「学生期」にしっかりと勉強し、またそれに続く「家住期」にはしっかりと社会の矛盾を認識しておく必要がある、と加藤は述べています。七友会の会員で最も年をとった人でもおそらく50才代半ばでしょうから、会員のほとんどは「家住期」のまっただ中にあると思いますが、加藤の言うように、「林住期」を乗り豊かにするには、是非とも自らが所属する社会の矛盾をしっかりと認識しておく必要があるでしょう。要するに、身も心も会社に捧げてしまてはいけない、ということです。僕自身は、すでに述べたように、初志とは違ったドイツ語の教員になりましたが、しかし、そのことによってかえってより広くまた深い知識を得ることができました。この雑学を武器にして「林住期」にはもう一働きしたい、と考えています。七友会の会員で現在の仕事に違和感を感じ不満を持っている人は、それは飯のため、家族のためと割り切り、まわりの人の出世競争にはあまり巻き込まれず、わき目もふらずそれに邁進している上司または同僚たちの生態をじっくりと観察しておいてください。そして、その観察から得たものをやがて来る「林住期」に大いに生かすようにして下さい。それでは、皆さんお元気で。

### ◆小林英信先生、遂に退官◆

平成22年3月末で退官される先生は、国際文化課程教授の小林英信先生、おひとりです。小林先生は、数少なくなった学部創設時からの教員で、ドイツ語やドイツ文学を中心に教鞭を執られました。ドイツ文学では、特にトーマス・マンの研究を専門とされ、多くの学部学生、院生を指導される一方、新聞を教材に使うなど独特の授業でも評判でした。同窓会では、こうした長い教育活動に感謝を込めて、ささやかですが、記念品を贈呈しました。

なお、退官後は、しばらくの間、東京に移られるとのことでした。

### 「同窓会設立30周年記念事業」企画会議報告

前回会報でもお知らせしましたが、平成23年7月開催予定の「同窓会設立30周年記念事業」の企画会議が、平成21年11月7日(土)、盛岡市のサンビル7階会議室で開かれました。参加者は、県内から2名、関東地区から6名、その他から4名の12名でした。あいかわらず市内からの積極的な参加が少ないのが問題となりましたが、準会員(在校生)を活用するなど対応していくことになりました。

まず、開催場所については、予定参加者を20周年記念事業時を上回る200名程度とすることから、盛岡市内のホテル、特に駅周辺とすることになりました。開催日は、7月の土曜日とし、16日あるいは2日が有力となっています。事業の中心となる親睦会は、関東方面からの日帰り参加も可能となるように、19時30分頃には終了することも了承されました。

講演会等については、親睦会前の2~3時間を予定し、岩手に縁のある人を中心に交渉することになりました。これは、大学や学部のPR兼ねて、一般公開も検討することになりました。また、地元からの動きが鈍いことから、遠隔地からの参加者へは何らかの補助を出すことも了承され、様々な方法を検討することになりました。

なお、実行委員長には、副会長の足立慎悟氏が選ばれ、今後の実行委員会は経費等も考慮して、関東を中心に開催していくことになりました。事業全体については、6月開催予定の平成22年度評議員会で正式決定されることとなります。「同窓会設立30周年記念事業」への御意見、要望等ある方は、七友会事務局までお気軽にお知らせ下さい。

### ～「学部就職ガイダンス」開催される～

今年度も12月15日(火)18時15分から恒例となった人文社会科学部就職ガイダンスが中央学生食堂におきまして開催されました。平成20年後半から顕著になった就職難がなお依然として続いている中での開催でした。

まず、就職担当(委員長)の松岡勝実先生、学部長の牧陽之助先生、今年度末で退官される小林英信先生から就職に対する(人生に対する?)心のもったメッセージが学生に伝えられました。つづいて、卒業生による就職活動体験発表では、人間科学課程から、(株)ワイズマンの菊池美歩さん、国際文化課程から、盛岡市立下小路中学校教諭(英語)の佐藤智也さん、法学・経済課程から、岩手銀行の佐藤啓之さん、環境科学課程から、(株)ホームマックの佐々木裕人さんの発表がありました。さらに、4年生内定者による就職活動体験発表では、人間科学課程から、金融関係内定の加藤明さん、国際文化課程から、公務員関係内定の古内謙さん、法学・経済課程から、保険関係内定の森有仁さん、環境科学課程から、民間企業内定の照井弘樹さんの発表がありました。七友会からは会長代理として私(大志田)が出席し、平成23年開催予定の30周年記念同窓会の告知活動を行いました。

軽食をはさみながら、各課程毎に集まったり、関心のある業種の人を囲んだり就職活動をはじめめる3年生の真剣な眼差しがあちこちでみられました。

(記 第1期卒 大志田)

## 「岩手大学同窓会連合」会議録

### ＜第2回理事会＞

理事会は、平成21年10月23日（金）15時より岩手大学事務局第1会議室で行われました。七友会からは、佐原、松岡が出席し、審議の結果、次のようになりました。

#### 1. 会長代理について

会長から、会則第9条第1項に規定される会長の代理について、桑島北水会長にお願いしたい旨の提案があり、了承されました。

#### 2. 新規事業計画（案）及び予算書（補正案）について

これらについては、関連性があることから一括して審議した結果、新規事業計画 1. ホームページの作成、2. ロゴマークの作成、3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会」への支援についての3件は、了承されました。ただ、新規事業計画 4. 「コミュニティネットワーク事業」については、継続審議とし、平成22年1月末までに各同窓会で意見集約の上、報告することになりました。（七友会では、平成21年11月7日開催の「30周年記念事業」企画会議等で意見を集約し、提出しました）予算書（補正案）については、原案どおり了承されましたが、「コミュニティネットワーク事業」経費の執行については、事業が了承されるまで凍結することになり、年度内に開催する拡大運営委員会（運営委員と各同窓会長で構成）で決定することになりました。

#### 3. 予備費の使用について

会長から、予備費の使用に関する申し合わせ（案）の提案があり、審議の結果、了承されました。

#### 4. その他

玉理事（副学長）より、「ホームカミングディ」について、来年度も実施されることになった場合、同窓生へ周知等の協力要請があり、審議の結果、同窓会連合として、協力していくことが了承されました。また、会長から、同窓会間の交流について、会則の主旨に添って、総会・懇親会等に他同窓会会員の参加を呼びかける等の交流を深めてほしい旨が述べられました。

### ＜拡大運営委員会＞

10月23日に開かれた第2回理事会の決定により、継続審議とされた案件等について、平成22年2月15日（月）、拡大運営委員会が、岩手大学事務局第1会議室で開かれました。七友会からは、佐原（会長）、松岡（理事）が出席しました。

#### 1. 岩手大学同窓会連合ロゴマークについて

ロゴマークの作成については、第2回理事会で合意を得ていましたので、デザインを依頼していた、教育学部の藁谷収先生を中心とした「アートフォーラム」からの提案を検討しました。同窓会連合の主旨を踏まえて、4つの同窓会が一体となり、学びの銀河で「夢」を目指し発展することで、4つの同窓会が連携し、支え合い、総合力を結集すること、をコンセプトに、「澄んだ空」「開かれた窓」、岩手の美しい自然環境を色と形で表現した、右のようなシンボルマークが示されました。様々な意見がありましたが、概ね合意が得られたので、次回の理事会に提案されることになりました。



岩手大学同窓会連合

#### 2. 「コミュニティネットワーク事業」について

これについては、各同窓会から出された意見を中心に議論されました。各同窓会からは、ネットワークの有用性を認める一方、セキュリティ問題等での慎重意見が多く、今年度の事業としては着手せず継続審議として、予算は次年度へ繰り越すことになりました。

#### 3. 平成22年度事業計画（案）について

会報は年1回とし、各同窓会会報の発行時期等を考慮して、12月頃とすることになりました。昨年は、大学主催で開催された「卒業生・修了生と学長との懇談会」（平成21年8月8日、八戸市で開催）への支援については、大学との共同開催を念頭に、予算面でも各同窓会代表1名ずつの旅費等を計上することになりました。なお、今年は8月7日（土）に仙台での開催を予定しており、各同窓会へも会員へのPR等の要請がありました。

さらに「ホームカミングディ」への支援についても検討されました。平成22年度は、大学祭（不来方祭）にあわせて、10月24日（日）に開催される予定で、予算面での支援を含めて、大学との共同開催も視野に入れることになりました。

#### 4. その他

第2回理事会で会長が述べられた、各同窓会間の交流促進について、一祐会より、毎年5月第3土曜日開催の総会に他学部同総会からも参加していただきたい旨が述べられました。

※ 運営委員会での検討結果は、理事会に提案され、理事会での了承を得て、正式決定となります。御意見等ある方は七友会事務局までお知らせ下さい。

～最近の主な活動状況～

平成21年10月23日(金) 岩手大学同窓会連合理事会  
(佐原、松岡)  
11月7日(土) 「同窓会設立30周年記念事業」  
実行委員会(12名)  
11月15日(日) 菊池誠先生葬儀(大志田) 弔電  
12月15日(火) 学部就職ガイダンス(大志田)

平成22年2月15日(月) 岩手大学同窓会連合拡大運営委  
員会(佐原、松岡)  
小林英信先生へ退官記念品贈呈  
岩手大学卒業式・祝賀会  
平成22年度岩手大学同窓会連  
合理事会(予定)  
平成22年度評議員会(予定)

※3月23日(火)  
※4月下旬  
※6月12日(土)

計 報

菊池誠先生(化学、名誉教授 88才)

平成21年11月11日、心不全のため逝去された菊池誠先生の葬儀が、11月15日、大泉寺(盛岡市本町通1丁目)で、しめやかに執り行われました。先生は化学を専門とし、第二次大戦直後から岩手大学で教鞭をとられ、人文社会科学部開設後の最初の講義(科学論)を担当されました。大学に限らず、岩手における科学教育に尽くされ、その逸話が参列された方々から、たくさん述べられました。退官後も、同窓会行事にはよく顔を出していただき、学部創設の頃を懐かしんで話しておられました。謹んで御冥福をお祈りいたします。七友会からは、佐原会長の代理として、私が参席しました。

(記 第一期卒 大志田)

— 評議員会開催について —

平成22年度の評議員会は、6月12日(土)に盛岡にて開催を予定しています。この評議員会では、平成23年7月に開催を予定している「同窓会設立30周年記念事業」に関わる決定や、役員改選が行われます。また、同窓会連合の事業についても話し合われたいへん重要な会議となります。評議員の方に限らず、関心のある方も参加できますので、気軽においで下さい。ただ、会場の準備等もありますので、出席を希望される方は事前に事務局まで御連絡下さい。多くの方の参加をお待ちしています。

記

- 開催日時 平成22年6月12日(土) 13:00~17:00(予定)
- 議 題
1. 平成21年度事業報告
  2. 平成21年度決算報告
  3. 平成22年度事業計画(案)
  4. 平成22年度予算(案)
  5. 役員改選
  6. その他

卒業生の皆さん、会員の皆さん 住所(変更)をお知らせ下さい

卒業生の皆さん、就職等で住所が変わり、落ち着きましたら同窓会にお知らせ下さい。連絡先住所は、本人の現住所がベストですが実家等連絡のとれるところでもかまいません。会報や行事の案内等を送ります。

ふりがな 氏 名	(男・女)	卒業 期 ( 年 月卒)	※封筒にある整理No.:
住 所 〒			
TEL			

雑 感

昨年9月末、二度目の福岡への転居がありました。こちらにきてあらためて東北の情報の少なさに驚かされました。新聞にもテレビにも全国ニュース以外で東北、とりわけ岩手が取り上げられることはほとんどありません。旅行会社のパンフレットにも、「岩手」の文字はほとんどみあらず、コースに出てくるのは花巻温泉か平泉ぐらいです。花巻空港への直行便がなくなったことが大きいのでしょうか、以前に比べると大きな違いです。

スキーツアーには、東北のスキー場はほとんどありませんでした。新聞広告でも東北地方の旅行より、韓国や中国への旅行がはるかに安くなっています。これでは岩手や盛岡の場所がわからない人がいても不思議ではありません。岩手に住んでいた時よりも一層心配になってきました。

岩手大学人文社会科学部同窓会

【郵便宛先】 020-8550 盛岡市上田3-18-34  
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛  
【事務局】 Tel(留守録) & Fax : 047-336-3945  
E-mail : office@shichiyukai.net  
info@jinsya.com

ホームページもご覧ください!

http://www.shichiyukai.net/  
http://www.jinsya.com/ [関東支部]